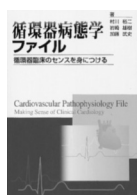


循環器病態学ファイル

循環器臨床のセンスを身につける



著：村川裕二，岩崎雄樹，
加藤武史

A5変形 頁248 2007年
定価5,250円(本体5,000円+税5%)
[ISBN 978-4-89592-466-5]MEDSi刊

村川裕二教授，岩崎雄樹先生，加藤武史先生共著の本書を読むきっかけがあり，一気に通読した。著者の先生方が循環器の病態を理解するのに，そして後輩たちに教育するのに，どのように考え工夫してきたかがよくわかる良書である。

以前に比べ，現在の医学生や，初期および後期研修医が学ぶべきことは確実に増えてきている。かつ，医療の安全，医療保険なども学ばなければならないし，診療にあたっては患者様へ十分な説明をしなければならない。時間はいくらあってもたりなくなる。しかし，どのような状況でも，個々の患者様の病態を理解し，最良の治療ができるように努めなければならない。

よい医療のためにはしっかりと学ばねばならない。わからないことを指導医に質問すれば教えてくれるかもしれないが，わからないことがわから

ないのであれば質問もできない。指導医も系統的に教育できる時間があるわけではないし，また，そのやり方がわかっているとも限らない。テキストが必要となる所以でもある。

学ぶにあたっては，単に記憶するだけではなく，なぜそうなるのかが筋道立ててわかるようになったほうがよいのは自明のことであるが，わかりやすく説いてあるテキストは多くない。本書はまさに，その点を最も重視したテキストである。時間のない場合でも，自分の知りたいことを目次から探して少しずつ読んでいくうちに，すべてを読破することが可能であろう。また，本書に書かれている最近の知見は経験を積んだ医師にも十分に役立つと思われる。救急医療に携わる医師および一般内科医にとっても，読んでみて損はない良書であることを約束できる。特に循環器を志す医師にとっては，知っておくべき内容をわかりやすく説明している入門書であると理解してほしい。今までわかりづらかったことが，本書を読むことにより，かなりすっきりできるはずである。

これを礎に，さらに学習していただきたい。基本は，解剖学的，生理学的，生化学的な事柄を総合した病態を学習して，日常の臨床に役立てていくことである。繰り返すが，循環器病の入門書のひとつとして，手元においていただきたい良書である。